

別記様式2

開発調査推進会議報告書

会議責任者	開発調査センター所長
-------	------------

- 1 開催日時及び場所 日時 平成28年3月10日(木) 13:30~17:30
場所 東京海洋大学 白鷹館
- 2 出席者所属機関及び人数 18機関 32名

3 結果の概要

議 題	結果の概要
1. 開会	開発調査専門役が開会を宣言した。
2. 挨拶	理事長から主催者挨拶、水産庁増殖推進部情報技術企画官より来賓挨拶が行われた。
3. 資料確認	
4. 委員紹介	開発調査専門役から委員の紹介を行った。
5. 座長選出	規程により理事長が、座長として評価・開発調査担当理事を指名した。
6. 議事	
1) 開発調査推進会議の役割について	開発調査推進会議の役割と今後の開催時期等について開発調査センター副所長より説明した。
2) 開発調査等の27年度の実施状況と28年度計画について	各グループ毎に開発調査等の27年度の実施状況と28年度計画について報告し、それに基づいて協議した。
(1) 底魚・頭足類開発調査グループの開発調査について	底魚・頭足類開発調査グループリーダーから、さんま棒受網、いか釣、沖合底びき網の各事業について報告した。 出席委員等からの主な意見は以下のとおり。 ・LED灯を使用したいいか釣の取り組みは、65%省エネ、8割の漁獲との事だったが、来年度はさらに当業船並となる様な技術を完成させてほしい。 以上の意見等を加味して次年度調査を実施することとした。
(2) 浮魚類開発調査グループの開発調査について	浮魚類開発調査グループリーダーから、遠洋まぐろはえなわ、遠洋かつお釣、海外まき網、大中型まき網、クロマグロ未成魚有効利用の各事業について報告した。 出席委員等からの主な意見は以下のとおり。 ・脂肪含有量の取り組みは、沿岸漁業でも行われているものの価格に結びついていない。こういった大規模調査の中で価

議 題	結果の概要
<p>(3) 資源管理開発調査グループの開発調査について</p> <p>(4) 受託調査について</p> <p>(5) 研究会の活動について</p> <p>3) その他</p> <p>7. 閉会</p>	<p>格に結びつく方向を見いだしてもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外まき網で使用する GPS ブイの有効利用の取り組みは期待している。EU 船がインド洋で成功していると聞くのでインド洋漁場を有効に活用する方法を是非とも開発して欲しい。 <p>以上の意見等を加味して次年度調査を実施することとした。</p> <p>資源管理開発調査グループリーダーから、沿岸課題、近海かつお釣、太平洋くろまぐる種苗ひきなわの各事業について報告した。</p> <p>出席委員等からの主な意見は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近海かつお一本釣りは周年を通して、季節毎、海域ごとに採算ラインがどの様に変化するか次年度調査して欲しい。 ・沿岸課題の小底調査については、何が必要で、どのようなデータがあり、今後何が出来るかの整理が必要。 <p>以上の意見等を加味して次年度調査を実施することとした。</p> <p>資源管理開発調査グループサブリーダーから受託調査として開発調査センターが実施した日本海ベニズワイ資源生態調査およびスケトウダラ音響トロール調査の概要について報告した。</p> <p>沿岸域における漁船漁業ビジネスモデル研究会の趣旨およびその活動状況について研究会事務局から報告した。</p> <p>いか釣り漁業漁灯技術研究会の活動について底魚・頭足類開発調査グループサブリーダーから報告した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もうかる漁業に開発調査センターの成果が反映されたとの報告があった。まき網船で最初に改革型漁船が建造されたのは今から 12 年前である。次の案、代船案をそろそろ出さなければならない。経営像を考えないと出来ないが、今後も連携して技術を開発して欲しい。